

第2回ラムサール湿地都市ネットワーク市長会議について

○会議の目的

ラムサール条約の湿地自治体認証を受けた都市で構成される「湿地都市ネットワーク」において、湿地に関する政策・経験の情報共有や相互協力を促進するためのプラットフォームを提供すること

○第2回会議の概要

- ・ 期日 令和5年6月8日(木)～10日(土)
- ・ 主催 フランス・アミアン市、東アジアラムサールセンター（事務局）
- ・ 会場 アミアン（市内および近郊）
- ・ 内容 会議、湿地の現地視察

○会議等



【会議】（写真）

- ・ ネットワーク会員43都市のうち、10か国から23都市（日本からは新潟市）が参加しました。
- ・ 各都市のほか、ラムサール条約事務局や国連環境計画をはじめ、多くの国際機関や地元（フランス）の機関も参加しました。
- ・ 基調講演等では、複数の方が、湿地と気候変動やCO2（ゼロカーボン）の関係などに触れ、湿地の重要性を述べていました。
- ・ 分科会では、各都市が事例発表およびパネルディスカッションを行いました。

新潟市は、市内の湿地の特徴および地域の取組みのほか、ラムサール条約湿地である佐潟の再生に向けた取組みなどについて発表しました。

各都市とも、湿地自治体認証を契機に、湿地についての大学の学科や専門学校の 신설など、次世代の担い手の育成に力を入れているようでした。

【その他】

- ・ ブース展示スペースでは各都市がポスターやチラシなどを設置し、PRを行いました。（写真）
- ・ 休憩スペース（写真）ではドリンクや軽食が提供され、参加者のコミュニケーションの場となりました。



○湿地視察1 ラムサール条約湿地「ソンム渓谷とアヴレ渓谷の湿地と沼地」



【湿地庭園「オルティヨナージュ」】

- ・フランス北部を流れるソンム川は、幾筋かの細かい川筋・水路に分かれて流れています。(写真)
- ・この湿地(川)のうち、アミアン中心部では、湿地庭園「オルティヨナージュ」として、多様な利活用が行われています。
- ・当視察では、ボートに分乗して湿地内の川筋・水路を巡るミニツアーに参加しました。(写真)
(ボート乗り場はアミアン駅から徒歩圏内)
- ・湿地(河川敷)は、市民のセカンドハウスとその庭園、カモやガチョウの飼育、狩猟(エリア限定)、ボートでアクセス可能なレストランなどに利用されていました。
- ・ボートツアーや湿地の維持管理は、協会(ボランティア団体)のメンバーが実施していました。
- ・水際の土留めの補修や、重機による浚渫・草刈りなど、湿地は手入れが行き届いているようでした。



○湿地視察2 ラムサール条約湿地「ソンム湾(河口)」



【マルコンテール自然公園(保護区)】(写真)

- ・海岸砂丘(松林)の海側に小規模な池(湿地)が復元され、野生生物の保護区となっています。
(入場は有料)
- ・アフリカなどから渡り鳥が多く飛来する、ヨーロッパ有数の越冬地となっています。
- ・樹上に営巣しているコウノトリやサギが多く、さかんにエサなどを運ぶ様子が見られました。



【アワーデル(河口の干潟および集落)】

- ・ソンム川の河口に位置し、干満の差の大きい、フランス最大の干潟(幅約5km)です。
- ・地元のガイド数名が説明にあたりました。
(塩分を多く含む食用の植物(写真)や、草の上で抱卵中の鳥を保護する柵などを説明)
- ・フランス最大のアザラシの生息地であり(2種計1,200頭)、アザラシ観察を目的とする観光客が多く、集落には小規模なホテルや飲食店などが立ち並んでいました。